

## 令和5年度3月期古賀市社会教育委員の会議 議事録

- 【 会議名称 】 令和5年度3月期古賀市社会教育委員の会議
- 【 日 時 】 令和6年3月21日（木） 18時30分～20時00分
- 【 場 所 】 リーパスプラザこが交流館 103洋室
- 【 主な議題 】 ・第9回生涯学習笑顔のつどいについて
- 【 出席委員 】 井浦議長、角森委員、村山委員、橋爪委員、砥上委員  
丸井委員、石川委員（以上委員7名）
- 【 欠席委員 】 倉掛委員、山本委員
- 【 事務局 】 教育部長、生涯学習推進課長、平川、田原
- 【 傍聴者数 】 0名

**【配布資料】**

- ・ レジюме
- ・ 第9回 生涯学習笑顔のつどい協議について
- ・ 第9回 生涯学習笑顔のつどい実施形態(資料1)

## 【次第】

### 1. 開会あいさつ

### 2. 協議事項

- ・第9回生涯学習笑顔のつどいについて  
開催日程：

### 3. その他

#### (1) 各委員から

#### (2) 事務局から

- ・パブリックコメントの結果について  
第3次古賀市生涯学習基本計画  
リーパスプラザこがリニューアル基本計画
- ・令和5年度古賀市社会教育委員活動報告書について

#### (3) 次回開催日程

4月24日(水) 18:30 ~ 会場: 103

### 4. おわりの言葉

・協議事項

第9回生涯学習笑顔のつどいについて

(井浦議長)

資料1の説明

(橋爪委員)

トークフォークダンスはとてもいいと思うが、やはり、決められた参加者数がベースとなるので、当日参加したい人や応援に来たい人の参加ができなくなる。子供を参加させたい場合、来年度分の学校の年間計画として決まっているので、難しい。だから、パネルディスカッション形式で2、3団体に発表してもらい、例えば、その中で共通点や、そこから学んだことは何か、3、4人くらいの小集団を作って、その中で自分たちが学んだことを発表する場を作る。小集団だともっとこんな話が聞きたかったなどの意見が出てくるので、それを発表者に投げかける。実際に学校でも、小集団を作って、テーマを絞って、話し合うと満足感が高かった。パネルディスカッションやインタビュー対談と小集団でのアウトプットという組み合わせが現実的でやりやすいと思う。

(角森委員)

パネルディスカッションは、発表者とフロアのやり取りする時間がもっとあればいいと思う。前回、時間が短いような気がした。

(砥上委員)

学校の現場でも小集団で、自分の考えを出せる場を作ろうとしている。パネルディスカッションまではいかなくても発表があって、少人数で話すのだと、時間的にもいけると思う。

(橋爪委員)

全体のコーディネーターがいて、社会教育委員も小集団に入って、その中で出た質問を取り上げて、全体に投げかけ、話をしてもらおうというようなやり取りができそうかなと思う。

(石川委員)

前回初めて参加したが、発表者の一方的な話ばかりだと聞いているほうは楽しくないと思った。もっとコミュニケーションがないともったいない。

(井浦議長)

そのためには、参加者をしっかり集めていく。

(石川委員)

発表者の方は発表するだけでなく、お声がけをしてもらって、人を集めてもらうことも必要。

(角森委員)

前は、話してもらうテーマを決めたが、それをもう少し掘り下げたほうがいいと思う。

(石川委員)

子育ての思春期問題は、子育てしているお母さんは興味があると思う。子育ての経験者の方に意見を聞くこともいいと思う。

(井浦議長)

形式としては、パネルディスカッションをベースにしながら、小集団で意見交換をし、その小集団の中に社会教育委員が入って、質問を発表者に投げかけ、考えを深めていく。

(石川委員)

もし、3人に発表していただくのであれば、テーマが少しずつ違うのか。今、心療内科でも病んでいる人が多い。引きこもりも多いのではないかと思う。

(井浦議長)

子育て、思春期問題は1番大切でありながらも難しい。日曜日に開催して、そこに悩んでいる人たちが来られるのか。著名人の発表ではないので、難しさも感じる。テーマについて子育て、思春期問題が出ているが、他にご意見はあるか。

(橋爪委員)

子どもに焦点を当てるかそうでないかになってくる。もしくは、前回みたいに幅広いテーマでいくか。

(井浦議長)

発表団体が2, 3あるので、例えば、放課後の過ごし方、子育て、思春期問題の分野の人を選んで話してもらって、共通部分や違う部分を出していく。ターゲットは、やはり子ども。放課後どう過ごしているか、親としての悩みをどんなものがあるか。

(砥上委員)

テーマを絞り込んでしまうと、そのテーマの発表しか合わなくなる。子育てに関する団体の取り組みがあるなら、そこからテーマを見つけていく。

(村山委員)

地域の現状としては、以前に比べて、地域でいろいろな活動をする人は減っていると感じる。

(井浦議長)

テーマは子育て、思春期、放課後の過ごし方、その辺で決定し、発表者を選考する。

開催時期については、10月は福岡ブロック社会教育委員研修会が古賀市で開催されるので準備がある。11月は九州ブロック社会教育研究大会があるため、1月下旬から2月上旬の日曜日を予定している。

(橋爪委員)

早い時期の1月19日でもいいのではないかと。ただ、この時期だと、発表予定者が万が一インフルエンザで来られないことも想定しておかないといけないと思う。

(丸井委員)

2月だと中学生、高校生の受験シーズンもあるので、早いほうがいいと思う。

(井浦議長)

次回が第9回になるから、第10回を一区切りにしたいと思う。トークフォークダンスとなると学校と組むのが1番ですし、対象も中学生ぐらいになってくる。そうすると学校の負担にならないように計画していかないといけない。個人的なイメージでは、第10回まで今ある形をつどいをして、その後は、トークフォークダンスをやりたいと思ったときに、来年の話の中で方向性が見えたら、早めに学校に相談しながらやっていく。そのときは、私たちも1回見学に行って勉強する必要がある。これを社会教育委員主催で、例えば小学校であれば、8校あるので、8年間かけてやってみる。